

## 海賊対処の第44次派遣隊が無事任務を終え帰港

～ 第44次派遣海賊対処行動水上部隊帰国式典の様相 ～

第44次派遣海賊対処行動水上部隊がソマリア沖・アデン湾に向けて、2023年1月22日に日本を発って以来、約7か月ぶりとなる8月6日に大湊（青森県）に帰港した。

同隊は、第7護衛隊司令（藤井健一 一等海佐）を指揮官とし、野瀬浩司艦長が指揮を執る護衛艦「まきなみ」であり、中尾正秀隊長以下8名の海上保安官を含む、210名を超える乗員が事故無く任務を遂行し、無事帰国した。

派遣期間中は、ソマリア沖・アデン湾において2回の直接護衛を実施したほか、海域を分担して警戒するゾーンディフェンスで多くの商船の安全を確認した。

これに加え、中東地域における関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動も行ってきた。

式典では、藤井司令から「任務を達成して全員無事に帰って参りました」と帰国報告の後、

齋藤聡自衛艦隊司令官が訓示において「元気に帰国した乗員諸官を迎え嬉しく思う。諸官は海賊対処行動、情報収集活動等の任務を見事に達成した。」と海賊対処行動を労い、加えて4月のスーダン有事における邦人輸送に備えた洋上待機任務に触れ、「未知の任務であるが国民を守り、豊かな海を守るという意識を感じた。」と称えた。

渡邊保範海上保安監は、「本行動は13年の長きに渡り実施されているが、6500海里も離れた海域で我が国の海上輸送を守り、日本商船隊に加え世界経済をも守っていることに誇りを感じる。現場の海賊状況は今なお予断を許さない中での重要な任務であった」と述べた。

当協会からは土屋恵嗣副会長が参加したほか、国際船員労務協会から池田事務局長、全日本海員組合から池谷国際局長ほか参加した。

土屋副会長は「日本商船隊を守って頂き、ありがとうございました。皆様、長期間の任務、誠にお疲れさまでした。」と半年以上におよぶ任務に謝意を伝えた。

雪の降る1月の出国行事と対照的に、強い日差しを遮るものが無い岸壁上で30度を超える猛暑の中、隊員は隊列を乱すことなく、帰国行事を終えた。

（海務部 事務局）

帰国行事



予定どおり入港する「まきなみ」



海上保安官を先頭に下艦する「まきなみ」乗員



報告する藤井司令（奥）と野瀬艦長（手前）



訓示する齋藤自衛艦隊司令官



挨拶する渡邊海上保安監



感謝の言葉を述べる土屋副会長



左より土屋副会長、藤井司令、野瀬艦長



中尾隊長（左）土屋副会長（右）



半年以上の任務を終えた「まきなみ」